

地域 ORC 2006 年度 LORC と東京農工大 COE との研究会

- 日時 11月27日(月)午後2時半から5時
- 場所 東京農工大府中キャンパス 農学部3号館 314教室
- テーマ 「LORC と東京農工大 COE との連携プロジェクトの協働案について
- LORC 側からの提案」
- 出席者 堀尾正靱 (東京農工大大学院 教授)
千賀裕太郎 (東京農工大大学院 教授)
福井隆 (東京農工大大学院 客員教授)
柏雅之 (茨城大学農学部 教授)
富野暉一郎 (龍谷大学法学部 教授)
白石克孝 (龍谷大学 教授)
土山希美枝 (龍谷大学法学部 助教授)
西原京春 (リサーチ・アシスタント)
- 内容 前回の共同研究会における千賀先生による提案書(7項目)をはじめ、堀尾先生の報告、議事録をふまえて、今後の方針について LORC 側から具体案を提示する。
- 広原 提案
- 1) 千賀メモには包括的な見解が記されているので、この中から具体化を検討
 - 2) 具体化する際の責任の所在を明確にすること
 - 3) とくに具体的なテーマが見つからない場合は、科学研究費申請、あるいは出版企画を考えるなど「繋ぎの工夫」が必要
- 白石 提案
- 当面の連携
「共同出版」 来年龍谷大学のブックレットの全3巻出版を予定
- 中期的連携
- 1) LORC 終了後の研究期間3年間延長を申請する方向性
農工大COEの何人かの方に研究員として入っていただく
 - 2) 事業組織
ペガサスから発展させた組織を構築
龍谷大学としてリエゾンオフィスないし新たな研究センターの検討に入っ

ている。

- 3) 地域共同調査 高島市、滋賀などへの働きかけ
- 4) 共同教育システム LORCが11月から始めている、公共人材認証制度社会的に先行しているうごき
- 5) 次世代育成方策
- 6) 共同出版 ブックレットの継続をはかる

土山 提案

- 1) PEGASUSを使った政策シュミレーション
 - ・ワークショップを研修として実施(共通の素材を使った、市民+職員のワークショップなど)
 - ・PEGASUSを主体に、NPO地方行政研究コースで情報ツールを扱う授業を実施(
- 2) 周知、PRへの協力
 - ・LORC主催のシンポで、農工大の発表やブースの設置をしてもらう
- 3) 協働ワーキングの設置
- 4) 共同シンポジウム開催

白石 ある種の協働研究をつくれるかどうか、やる場合は研究と何らかの実践事業をやっているということ、アウトカムとしては実践事業の方はブックレットで、研究の方はもう少し専門的な本に出しているということですね。しかし、問題は自治体との仕掛けが上手くいっていない。今度ICLEIとのシンポジウムを開くが、ICLEIが得意としていることは、いろいろなキャンペーンを展開することだ。ICLEIがやる気になれば、われわれと自治体を繋ぐものを何らかのキャンペーンとして展開する、例えばICLEI側が組織し、われわれが、講師として勤めるなど、方法はあるかな。いづれにしても、研究と実務をつなぐ繋ぎ方が難しいというのが実感。

今の話しは自治体サイドの考え方に民間から切り込んでいく考え方だが、もうひとつは、主体の中での話として、エコ・コンソーシアム・アクションプランという議論が京都府ですすんでいるが、このプランの中に我々がかんでいく場所はないかということをして今日は話し合いたい。

富野 エコ・コンソーシアム・アクションプランの骨子

プラン策定の趣旨として、1つには、京都府は京都議定書の目標を上回る1990年の比温室効果ガスの10%削減をめざしている。脱温暖化社会と資源循環型社会を包含した「持続可能な社会」作りのために、「結果」への対策ではなく、「原因」への働きかけが重要となる。そこで、新しい地域社会のあり方の創造がもてられているが、そのためには、京都の府民・企業・地域等が連携することが不可欠である。このコンソーシアムは府県と政令都市、そして企業も入った知事レベル

の協議会なので、具体化する可能性が高い。

課題としては、都市と農村開発をどうするかなど、山積みである。具体的には、環境対応ビジネスが、京都特有の資源を活用して発展するための経済的・制度的な条件づくりが必要。また、環境問題を解決するために求められる目標や基準に到達できる技術開発を促進していくなどがあげられる。

コンソーシアムの活動内容は、基本的な機能として、1. エコ産業戦略政策推進機能 2. イノベーション・マッチング機能 3. プロジェクト審査・エコ産業検定資格付与機能があげられる。

3に関しては、行政は制度設計をあまりやってこなかったが、行政の持っている権力的作用を戦略的に使っていこうというもの。地域と企業の連携を行政が権力的に関与する。コントロールするのではなく、権力を利用して関与するという考えに基づく。しかし、問題としては具体的なプロジェクトがでてこなかった。

龍谷大学の試みとしては、リエゾンオフィスや地域公共人材の社会的認証制度の構築などをそれぞれ検討、取り組みつつある。今まではシステム研究だったが、「持続的社会にむけての協働」として、具体的な実践として展開していきたい。リエゾンオフィスや協働研究オフィスをたちあげたら、プロジェクト提案ができるのでは。協働と社会に関する研修プログラムなどを含めて、その中で、ペガサスを持ち込むなど可能性をさぐっていききたい。

白石 我々でなければできないということ、どのようにうちたてるかが問題。われわれの方も農工大と組むことについて、一定の説明責任が内部的に求められる。京都府のプロジェクトをどうかすかというのは、とりもなおさず、京都にある研究施設や他の研究者たちに対して、我々の特殊性をうちださないといけない。

京都府と具体的にやっていけるのかどうかという問題もあるが、堀尾先生が展開されている技術を取り入れてやっていく上で、こちらのプロジェクトに乗る方が、ICLEIを使ってキャンペーンをうちだしていくよりはやりやすいかも。

堀尾 説明責任の話にもかかわるが、龍谷大と農工大が組むことについて、なぜという理由として、新しい方法論をださないといけない。そのときには、踏み絵としては、技術の詳細はわからなくても、技術がどのように自分たちと関わり、自分たちにとってどのように必要なのかについてははっきりした位置づけをもっていたこと。それと二酸化炭素の話ですね、それがないと、われわれとやっていく意義がない。はっきりそこをターゲットにしていただかないといけない。

しかし、それだけでは、京都にもたくさん大学があるから足りない。地域の問題から全部をつないだ論理を共同開発したことをうちださない。ペガサスについてもペガサスは解決志向型だから、開発にも参加していただくという形で、抽象的でなく明確にしてもらいたい。

技術は政策にとって何になるのか、そこをもう少しはなしていただきたい

- 白石 我々は、L O R C 延長を申請するが、その際、サステナブルな地域社会を創ることがメインになる。しかし、その場合、温室効果ガスを具体的に削減できるということが環境の中で語られないと迫力に欠ける。社会がCO₂をコントロールできるようなしくみを描くというところで、生存科学と社会科学を含めて提起していくよう構築してはどうかというのがこの共同研究をすすめる趣旨。
- 福井 ここで、具体的な話をすすめる上でヒントになるような事例を紹介したい。先日、プレインタビューで聞いた話したが、森林の不在地主が森林を皆伐し、チップにして売りさばいていた。災害の原因になるので、緊急の課題として取り組まないといけないのだが、それに対して企業が応えはじめています。環境貢献という意味もあるが、CO₂の排出権取引も考慮してのことなのではないか。このケースは、企業が関わる面白い例として、地域のマイナス面をプラスに変える可能性があるのではないだろうか。
- 富野 デンマークでの環境省の話では、排出権取引を認める方向に進んでいる。同様に、京都でもやりたいとしている。日本でもできるのでは。特区でやれば、京都は特に目標値をもっているから。
- 白石 明確なシナリオと、地域の中でそれが貢献することがつながるようなものにしないと。地域のエネルギー自給権みたいなものをどれくらい追求できるかなど、具体的にしていけば、モデルが作れるかもしれない。
- 堀尾 どういう問題が解決できるかというシナリオをつくらないと。京都はデモンストレーションとしてつかっていけばいい。実際動きだすと、われわれはあまり役目がない、京都はデモンストレーションで、うまくいけば、次をやっていこう。
- 白石 今日の会議は全体として、生存科学というところで、一緒にやる必然がある学問をつくることについて、研究していこうというものである。
- 実践的な部分も含めて、一つには、京都府の議論を念頭にいれながら、京都府モデル、例えば温室効果の削減と地域再生とを結びつけたメカニズム作りができないか。また、これが、普遍的なモデルとなるようモデル作りというのもすすめる。
- 人材育成ということでは、ペガサスを活用するシーンを見つけていく。さらに、お互いが出す本に執筆者として名前をつらねていくことが大切。
- 堀尾 ペガサスの改訂版が3月にでるが、その前に、地域に具体的に役にたつ問題設定など、意見をもらいたい。
- 白石 次回の研究会はペガサスのデモを中心に、改定版の中にどのような要素を盛り込むべきか、活用方法、発展方法について検討。次々回は京都モデルをどうするのかと、体制をどのように構築するのか2点に焦点を合わせてはどうか。

次回の共同研究会は1月18日 12時から15時 京都で開催することが決まりました。

